

これからのスタンダード 「次世代省エネ基準」

次世代省エネ基準は暖冷房用のエネルギー消費量が、従来の基準より20%削減することを目的とした基準です。

これは比較的温暖な地域についても、従来より厳しい基準になっています。具体的な中身は、住宅を建てる際に必要な性能を規定した「建築主の判断基準」と、具体的な仕様からなる「設計・施工の指針」からなり、4つの判定基準のいずれかを選択して適合させます。またフラット35の「優良住宅取得支援制度」でも次世代省エネ基準は融資条件の1つになっています。

what's? メリットとしてどんなものがある? 安全・快適な省エネ生活

- 住宅の省エネルギー化は、消費エネルギーの節約や住空間の快適性だけでなく、二酸化炭素の排出を抑えて、地球温暖化対策にも貢献しています。
- フラット35適合住宅-住宅金融支援機構のフラット35(省エネルギー性)住宅に適合しているため、金利の優遇などが適用されます。
- 気密性が高いメリット-従来の建物より、気密性が高いため、冬の冷たい隙間風が軽減され、また、ホコリも入りやすく、屋外の粉塵や花粉が入ってくるのを抑える効果にも役立つと言えるでしょう。外気からの侵入を防ぐことは、室内の音漏れを防ぐとも言えます。
- 断熱性が高いメリット-断熱材はもちろんサッシについても断熱性、遮熱性があります。建物の窓は、熱の出入りが大きな場所となり、この性能を強化することで、結露への効果が期待できます。また、気温の変化が体にストレスを与える「ヒートショック」に対する効果も得られるでしょう。
- 光熱費の軽減-上記のように、結露の軽減、健康面へのプラス、室内温度の安定性を考えれば、断熱性・気密性のUPは光熱費の削減効果をもたらします。
- メンテナンスに係る費用-住まいの断熱化は建物自体の損傷を防ぐことにもつながり、長期間の使用に対する経済的メリットも考えられます。